郷土福島の地名調べ・虎の巻

壱、知りたい地名についての情報を整理する

・それは地名ですか、それとも山の名前、川の名前などですか。
　←「地名事典」の他に山の名前を集めた事典など様々な事典があります。

・場所は現在のどのあたりですか、またその地名が示す範囲はわかりますか。
　←調査対象資料を絞り込む手掛かりとなります。

・いつ頃使われていた地名ですか。
　←地名は生まれたり消えたりします（合併に際しては市町村名としては消えても区や字（あざ）として残ることもあります）。使われていた時代によって調査対象の図書も変わってきます。

・漢字だけでなくヨミもわかりますか。
　←漢字は当て字が使われることもあります。図書館では資料に書いてあるとおりの漢字で入力しています。例えば白河/白川のように二通りの表記がある場合、「ヨミ」で検索したり、二通りの漢字で検索したりのように検索方法を工夫する必要があります。また地名は福島市丸子（マリコ）のように特殊な読み方をする場合もあります。

・その地名や場所に関係の深い人物や事柄、建物はありますか。
　←地名を調べるときは主に地理関係の資料を探しますが、その場所で生まれ育ったなど関係の深い人物がいればその人の伝記等、またランドマーク的な建物や施設があればその記念誌などに古い地図などが掲載されていることがあり参考になります。

・すでに調べた資料があれば書名、該当ページなどを控えておきましょう。
　←もういちど参照するときに便利です。また調べた資料に参考文献一覧がついていれば、その参考文献も調査対象にしましょう。

弐、福島県立図書館について知る

(1)実際の書棚をみてみる

図書館の資料にはすべて本の背の部分にラベルが貼ってあります。当館では3段ラベルを使用しています。福島県関係の資料(地域資料)は1番上の段がＬをつけた数字で、この数字の順番に左から右、上から下へ棚に並んでいます。ＬはLocalの頭文字で地域資料であることを示します。福島県の地理関係の資料は一番上段がL291.□です。四角の中の数字で大まかな地域がわかります。各数字が示すのは以下の地域です。

1	福島市（信夫郡）	4	須賀川市・岩瀬郡・田村市・田村郡・石川郡	7	南会津郡・大沼郡・河沼郡
2	伊達市・二本松市・伊達郡・安達郡	5	白河市・西白河郡・東白川郡	8	いわき市
3	郡山市（安積郡）	6	会津若松市・北会津郡・喜多方市・耶麻郡	9	相馬市・南相馬市・相馬郡・双葉郡

例:『相馬地名考』新妻三男／著
相馬郷土研究会　1990
のラベル

⇨

L291.9
N1
2

(2)蔵書検索を使ってみる

100 万冊以上ある当館資料を探すためにはコンピュータによる検索が不可欠ですが、万能ではありません。蔵書のデータは「書名」「著者名」「出版者」等で構成され、これらに検索語が含まれている資料を検索結果として返してきます。目次を登録してある図書、雑誌も一部ありますが、多くの資料では登録されていないため目次に含まれている単語から本・雑誌を探すことはできません。また、Google books のような本文の全文検索もできません。検索結果が 0 の場合、その場所を含む、より広い範囲を示す地名で検索するなどの工夫が必要となります。

当館の蔵書検索だけでなく、目次や雑誌記事見出し情報の登録件数の多い NDL-ONLINE など、インターネット上に公開されているデータベースを併用するのがおすすめです。

参、基本的な資料を押さえる

(1)代表的な地名事典

①『日本歴史地名大系　第７巻　福島県の地名』　平凡社　1993
「五十音別索引」「難読地名一覧」「文献解題」あり。「行政区画変遷・石高一覧」の表も便利。

②『角川日本地名大辞典　７　福島県』　角川書店　1981
五十音順に配列。「難読地名索引」あり。「地誌編」で市町村別の地誌を解説。「小字一覧」あり。

③『大日本地名辞書　第７巻　奥羽　増補版』　吉田東伍／著　富山房　1970
郡別に排列。別に索引巻あり。かな、漢字索引あり。最初の版は明治 39 年に発行。

⑵様々な地名の事典

①『三省堂日本山名事典』　徳久 球雄／編集委員　三省堂　2011
2 万五千分の 1 地形図掲載の山名・峠名を掲載。巻末には画数から引ける漢字索引あり。

②『河川名よみかた辞典』　日外アソシエーツ　1991
画数順に排列。音読索引あり。

⑶事典以外で地名を掲載する資料

①風土記・郡村誌とよばれる地誌類

江戸時代に編纂された『新編会津風土記』や明治以降県の訓令により編纂された『安積郡誌抄』ほかの郡誌には古い地名、山名、河川名などが収録されています。県内の風土記・郡村誌については『福島県立図書館 本の森への道しるべ　地域 10-2 風土記, 郡村誌』として一覧にし HP でも公開しています。またインターネット公開されている資料については当館 HP リンク集内の「ふくしまについて調べるためのデジタル化資料（デジタルふくしま）」で紹介しています。

②地図

ⅰ国土地理院発行地図

明治時代～現代まで国土地理院（前身の陸軍参謀本部を含む）が作成した地図を所蔵しております。当館の所蔵状況は HP>資料案内>国土地理院地図（県内）で確認することができます。

ⅱガイドブック

旅行ガイド、登山ガイドなど様々なガイドブックには縮尺の大きな地図が掲載されていることがあります。

ⅲ地図集成

『明治・大正日本都市地図集成』　地図資料編纂会／編　柏書房　1986
1903（明治 36 年）「福島市街地図」を収録

『昭和前期日本都市地図集成』　地図資料編纂会／編　柏書房　1987
1936（昭和 11 年）発行「最新刊番地入福島市全図」, 1934（昭和 9 年）発行「最新刊若松市地図」, 1932（昭和 7 年）発行「平町全図」を収録

ⅳ職業別明細図

『大日本職業別明細図』　東京交通社／編　東京交通社　1937
※国立国会図書館デジタルコレクション　送信参加館公開資料

『福島県　会津若松市　会津地方図』　東京交通社／編　東京交通社　1941
※大日本職業別明細図第 699 号

『福島縣　伊達・信夫郡全図』　東京交通社／編　東京交通社　1941
※大日本職業別明細図第 688 号

v 住宅地図

近年の地名については住宅地図も参考になります。ただし、人家のない場所については掲載されていません。当館ではおおむね昭和 50 年代以降の県内分を所蔵しておりますが、市町村毎に所蔵する年代は違います。詳細は HP の資料案内>住宅地図（県内）をご覧ください。

明治時代の住宅地図ともいえる「地籍図」は福島県歴史資料館で保存しています（閲覧は複製品を利用するということです）。

vi 古地図

「福島県立図書館所蔵　明治期以前地図・絵地図目録」

（『福島県郷土資料情報　No.43』福島県立図書館　2003　に掲載）

当館所蔵の明治以前発行の地図の一覧です。当館 HP から excel ファイルでダウンロードできます。一覧に掲載するものでも、状態が悪く閲覧できない地図もありますのでご注意ください。

国土地理院　古地図コレクション

https://kochizu.gsi.go.jp/

国土地理院が保管する古地図をインターネット上で閲覧できます。

③市町村史

各市町村史に古い地図や地名が掲載されていることがあります。索引のある市町村史の場合、地名から引くことができる場合もあります。また地名に特化した巻のあるものもあります。

例：『福島市史資料叢書　第 38 輯　福島の小字』　福島市史編纂委員会／編

福島市教育委員会　1983

⑷インターネットで調べる

①地図空間情報ライブラリー

http://geolib.gsi.go.jp/

国土地理院の提供するサイトです。地図や空中写真を地名で検索し、閲覧することができます。地理院地図を使うと作図もできます。

～こんな地 図 もあります～

『只見町の川地図』　風光舎／制作　只見町ブナセンター　［201-］

地名は人が付けるものですから、その場所に行く人がいなくなると忘れられ、失われてしまいます。地図には作られた時点のその土地に住む人々の暮らしが記録されています。『只見町の川地図』は伊南川と只見川の支流の名前を町の人々へ聞き取りして作成された地図で、地形図等にはのっていない小さな川の名前まで記録されています。ユニークかつ貴重な地図と言えるでしょう。

肆、事例に学ぶ

事例. 江戸時代のことを調べているが、現在の会津若松市域内に「石田」という地名があったか。もしくは福島県内に「石田」という地名はあったか。

まずは基本の事典をしらべます。

『角川日本地名大辞典　7　福島県』

p100　いしだ

いしだ　石田　福島市　近代　昭和 41 年～現在の福島市の地名。もとは旧福島町域(大字なしの地域)の一部

いしだ　石田　霊山町　中通り北部、石田川流域の阿武隈山地のふもとに位置する。

〔近世〕 石田村　江戸期～明治 22 年の村名。伊達郡の内。はじめ会津領～。

〔近代〕 石田　明治 22 年～現在の大字名。

この事典では会津若松市の石田は見つかりませんでした。ではもう1冊の地名事典も調べてみます。

『日本歴史地名大系　第7巻　福島県の地名』

p1039　石田(会津若松市)

経沢村　現:会津若松市湊町平潟 「～本村の北西1町10間余に端村石田がある～(新編会津風土記)」

索引によると他の石田は

石川町、本宮町(現:本宮市)、福島市、塩川町(現:喜多方市)、喜多方市、会津本郷町(現:会津美里町)にあるようです。

石田村は

霊山町(現:伊達市)にあるようです。

「現在の会津若松市域内の石田」は会津若松市湊町平潟にあった地名のようです。

出典とされている**『新編会津風土記』**をみてみましょう。『新編会津風土記』にはいくつかのバージョンがありますが、ここではまず索引のある歴史春秋出版の『新編会津風土記　第 5 巻』を使います。「い」の項を確認しても、「石田」はありません。「石田」は「経沢(へざわ)村」の「端村」という解説でしたので、「経沢村」を探すと、「②43」となっています。これは 2 巻の p43 ということなので、該当部分をみてみると「経沢村」があり、「端村　石田」についても位置、家の数など 2 行ほどの解説があるので、おおまかな位置の推定に役立つと思われます。また、『新編会津風土記』の「巻之二十七」に収録されていることがわかります。

『新編会津風土記』は昭和 7 年に『大日本地誌体系』の第 30～34 巻として雄山閣から発行され、この版は**国立国会図書館デジタルコレクション**においてインターネット公開されていますので、ご自宅等で閲覧することが可能です。「巻之二十七」は第 31 巻に収録されています(右上の図が該当部分です)。

伍、終わりに～インターネットでの情報公開を活用する～

レファレンス協同データベース　https://crd.ndl.go.jp/reference/

「国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベース」で、各館が調査した事例を提供しています。当館も参加しています。

事例は検索が可能ですので過去に同じことや似たことを調べた事例が見つかるかもしれません。地名の調査に限らず利用できます。

p1 のイラストはすべて『北斎漫画』（国立国会図書館デジタルコレクション）より

（地域資料チーム　田中信乃）